

平成17年11月10日
青森県 県土整備部
道路課 維持補修グループ

国道279号風間浦村易国間地内の 落石対策について

標記の件については別添のとおり検討結果を取りまとめ、現道機能強化案で、整備を進めることとなりましたのでお知らせします。

【問い合わせ先】

道路課 維持補修グループ

代表 TEL 017-722-1111 (内線4263)

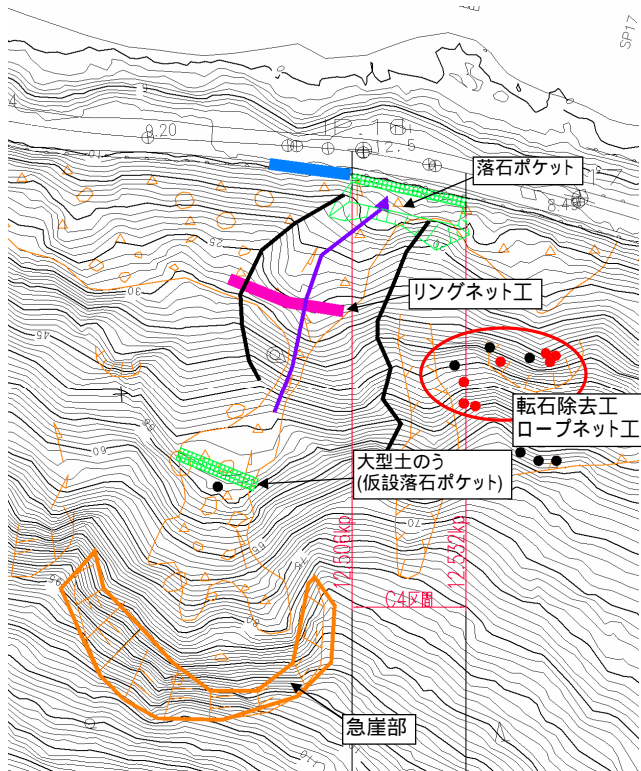
直通 TEL 017-734-9657

国道279号易国間工区 対策案比較表

災害防除 区間延長 L = 2.7 km

対策案	対策概要	標準断面、ルート等	事業費および事業期間		評価 順位
			評価要素	理由等	
第1案 現道機能強化案	<p>現道を活用し法面对策を徹底し落石を防ぐ。 生活道路として将来とも現道は廃止できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 急崖部は落石発生の可能性が高いため危険岩塊を除去。 併せて斜面中間部の転石対策を行う。 (転石除去、ロープ掛け、待受擁壁工、落石防止柵等) <p>急崖部岩塊除去延長 L= 0.5 km 斜面転石対策延長 L= 2.7 km</p>	<p>【急崖部対策例】</p> <p>岩掘削+法枠工 転石除去工 一次堆積帯(切土+大型土のう) 道路保護ポケット+大型土のう 防護柵 簡易ネット等 ロープ掛け 現道</p> <p>赤:急崖部対策工事 青:法面对策工事</p>	<p>27億円</p> <p>緊急対策 約5年 (引き続き法面保護工へ移行)</p>		①
			事業効果の早期発現	最も早期に発現できる。	
			冬期間交通の確保 施工中の交通確保	冬期間も現状と同様に通行できる。 施工中も規制を伴わない。	
			防災・安全機能	現道の安全が確保できる。	
第2案 盛土案	<p>危険箇所を盛土工法により海側にシフトさせ落石による道路被害を防止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海側には消波ブロック等、斜面側には土堤と落石ポケットを設置する。 バイパス整備中の現道安全対策が必要。 <p>盛土延長 L= 1.5 km</p>	<p>土堤+落石ポケット 消波ブロック 現道 バイパス (盛土案)</p>	<p>50億円(緊急対策15億円含む) 約10年</p>		3
			事業効果の早期発現	やや長期となる。	
			冬期間交通の確保 施工中の交通確保	冬期間も現状並みに通行できる。 工事区間は長期間の片側交互通行となる。	
			防災・安全機能	現道の安全が確保できる。	
第3案 橋梁案	<p>危険箇所を橋梁により海側にシフトさせ落石による道路被害を防止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> バイパス整備中の現道安全対策が必要。 <p>橋梁延長 L= 1.5 km</p>	<p>現道 バイパス (橋梁案)</p>	<p>95億円(緊急対策15億円含む) 約20年</p>		4
			事業効果の早期発現	長期となる。	
			冬期間交通の確保 施工中の交通確保	冬期間も現状並みに通行できる。 工事区間は長期間の片側交互通行となる。	
			防災・安全機能	現道の安全が確保できる。	
第4案 トンネル案	<p>トンネルにより落石危険箇所を避ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> バイパス整備中の現道安全対策が必要。 <p>トンネル延長 L= 2.1 km</p>	<p>(トンネル案) 現道 トンネル</p>	<p>90億円(緊急対策15億円含む) 約15年</p>		2
			事業効果の早期発現	トンネルであるため集中的に投資を検討するが、それでも長期となる。	
			冬期間交通の確保 施工中の交通確保	冬期間に雪等の影響を受けなくなる。 施工中も規制を伴わない。	
			防災・安全機能	防災機能が強化される。	
		海岸部への影響	影響なし。		

国道279号易国間工区 現道機能強化案 対策例



静的破砕<右> + ロックライミングマシン<下>



岩塊除去



ロープ掛(写真)で固定
小割にして転石を除去

大型土のう
(仮設落石ポケット)

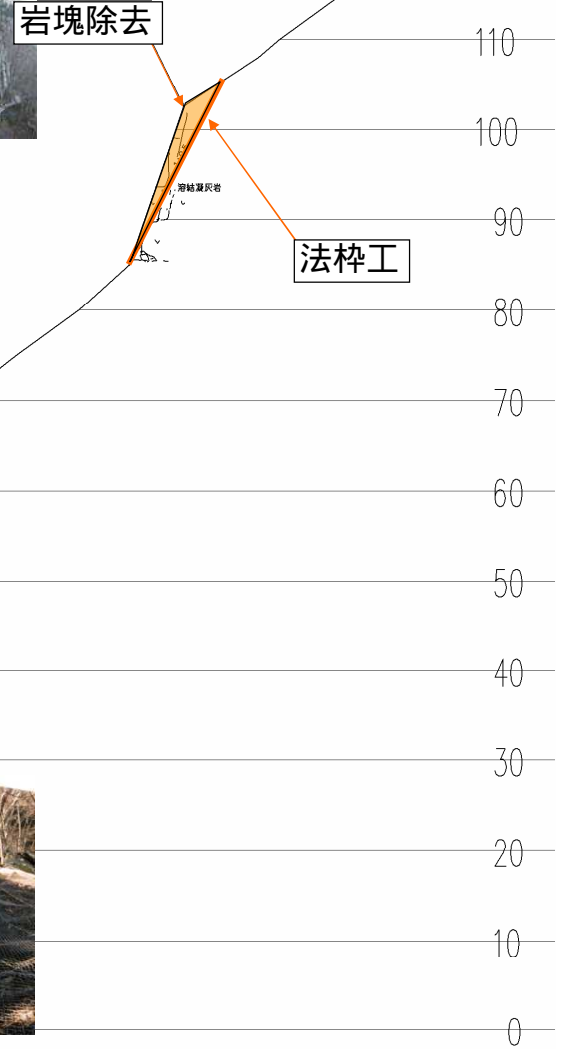


リングネット工

ロープネット工



落石ポケット(土砂掘削 + 大型土のう)



現道